

ハウジングとホーム

東京大学大学院人文社会系研究科 祐成 保志

1. 「社会政策」としての住宅政策（武川，1996）

①住宅政策の主要分野

- 1) 最低居住水準の保障
- 2) 家賃統制と借家権の保護
- 3) 公共賃貸住宅の建設
- 4) 民間賃貸住宅への助成
- 5) 持家取得のための租税支出
- 6) 住宅手当の給付

②政府介入の論拠

- 1) 消費者を保護するため
- 2) 外部不経済を是正するため
- 3) 市民権を保障するため

2. 住宅政策の社会学的研究の展開

①国際比較の困難（Wilensky, 1975=1984）

- 1) 利用可能なデータがそろっていない
- 2) ハウジングにかかわる政策があまりにも幅広い
- 3) 住宅政策は重要だが計量的な分析には不向き

②住宅保有構造と福祉制度の関連（Kemeny, 1992）

- 1) ライフサイクルのなかでの住居費負担の分布
- 2) 生活の私事化（個別化）、協同化（集合化）の度合い
- 3) 住宅は、世帯の生活構造、都市の空間構造、そして政治意識に影響を与える

③住宅市場の多様性（Schwartz and Seabrooke, 2008）

- 1) GDPに占める住宅ローン負債割合と持ち家率による、先進諸国の住宅市場の類型化
→「コーポラティズム的市場」「自由主義的市場」「中央集権的開発主義」「家族内供給」
- 2) 自由主義的市場に収斂する傾向がありながらも、依然として地域差は大きい
- 3) 住宅市場の多様性は、居住空間がさまざまな主体によって供給されており、その組み合わせが社会によって異なり、その変化には時間がかかることを示している

3. 住まいの2つの側面

住まいは客観的に把握される建造物であると同時に、主観的な意味が付与された生活の場である。両者は、「ハウジング」と「ホーム」と区別されることがある (Smith ed., 2012 など)。

世帯	-----	住宅	-----	地域	⇒ 「ハウジング」の側面
household		dwelling unit		locality	【制度、契約、量、管理…】

家族	-----	家庭	-----	まち	⇒ 「ホーム」の側面
family		domesticity		community	【規範、とりきめ、愛着、配慮…】

住宅政策は、従来、ハウジングの側面に重点を置いてきた。「安心居住政策」は、より積極的にホームの側面にかかわることになるだろう。

参考文献

- Kemeny, J., 1992, *Housing and Social Theory*, Routledge. (=祐成保志訳, 近刊, 『ハウジングと福祉国家』新曜社)
- Schwartz, H. and Seabrooke, L., 2008, Varieties of Residential Capitalism in the International Political Economy, *Comparative European Politics*, 6, 237-261.
- Smith, S. ed., 2012, *International Encyclopedia of Housing and Home*, Elsevier.
- 武川正吾, 1996, 「社会政策としての住宅政策」大本圭野・戒能通厚編『講座 現代居住1 歴史と思想』東京大学出版会
- Wilensky, H. L., 1975, *The Welfare State and Equality*, University of California Press. (=下平好博訳, 1984, 『福祉国家と平等』木鐸社)